

い、中国に進出してい
る日系企業はおよそ三
万社といわれ、かつて
ない規模に達している。「政冷経
熱」の小泉時代ですらこの動き
はとどまる気配をみせなかった。
しかし、林が広くなればいろ
いろな鳥が棲むのと同じ
ように、現場では看過でき
ない問題が起きている。正直、
一部の日本人管理職の職業モラ
ル低下には目を覆いたくなる。
仕事を発注する立場を利用して
王様のように振る舞い、下請
け企業から容赦なく搾取する。
ミニスカートに厚化粧の「夜の
女性」を白昼堂々と企業視察の
現場に連れてくる。本社の指示
には面従腹背、他人名義でリベ
ート稼ぎのトンネル会社をつく
ったり、現地の悪者と結託して
私腹肥やしに精を出す。
しかも、こうした日本人の上
司も上司で、問題を知ったとこ
ろで、くさいものには蓋といっ
た態度。会社の名誉や信用を守
る行動を起こすより、とりあえ
ず自らへの責任の波及を回避す
ることを最優先とする。長年こ
うした現場を見すぎるほど見て
きた私は時折、苦悩の淵に立た
される。

『企業改革への CSR実践論』

清川佑二著
日経BP出版センター
1600円+税



新刊紹介

● just published

撤退の研究

森田松太郎/杉之尾直生(共著)
日本経済新聞出版社刊
本体価格2200円+税

『撤退の研究
時機を得た戦略の転換』
撤退という事業に関
して企業篇と軍事篇
にわけて徹底検証す
る。リーダーの判断
力、先見力、決断力、
実行力、損失に対す
る理念が問われると
いう示唆に富む書。



佐藤 隆著
ダイヤモンド社
本体価格1800円+税

『ビジネススクールで教える
メンタルヘルスマネジメント入門』
多発するビジネス現
場の「メンタルダウ
ン」にどう対処する
かを、臨場感あふれ
る豊富な実例をもと
に解説。経営学とメ
ンタルヘルスを融合
したトータルな対応
策を提示する。



塩田 潮著
平凡社新書
本体価格760円+税

『民主党の研究』
誕生からわずか11
年の民主党の実像は
ハッキリしない。「自
民党に代わる政権担
当可能な党」を標榜
しながら、数々の矛
盾や課題を抱えている。
キーパーソンの
発言、動きを通して、
民主党の本質に迫る
ドキュメント。



ヤマヤム・アキナ著
幻冬舎
本体価格1200円+税

『グリアの夢
—セカンドライフ物語—』
仮想世界セカンドラ
イフの「八国山」シ
ムを立ち上げた女性
社員が主人公のファン
タジーストーリー。
お金儲けの一步先行
くセカンドライフの
可能性を小説仕立て
で読み解く好者。

もし、これがどこかの零細企
業ならば、まだその程度のレベ
ルの企業なのだと吐き捨て、そ
れ以上気にかけることもないか
もしれない。しかし、こうした
問題を起こしている企業が日本
を代表するビッグネームとなる
とそうはいかない。実名を挙げ
て報道してしまいたいという衝
動にかられるのだが、書かれた
人たちの人生はと考えると、や
はりともどつてしまう。

そんな中、一冊の本が私の目
に留まった。『企業改革へのCS
R実践論』だ。東芝のリスク・
コンプライアンスとCSR（企
業の社会的責任）の担当役員が、
ほぼ一年間をかけて書き上げた。
この本が指摘していることは
現場にとって非常に重要だと感
じた。たとえば、不祥事を起こ
した会社の責任者が辞任に追い
込まれる原因は、「部下の法令違
反を知らなかった」「法令遵守を
軽視していた」が多くを占める。
こうした最悪の結果を避けるた
め、「内部通報や外部の情報提供
を軽視してはならない」「リスク
があればリスク担当役員に報告
しなければならない」など、著
者の経験に基づく実用的なアド
バイスが目を引いた。考えてみ
れば当然のことなのだが、実際
できていない企業がほとんどで
はないか。

さらに、「違法行為をした人の
管轄下にある組織は腐るから、
仕事の実績がよい人でも昇任の
審査は慎重に」という記述には、
その通りだと思わず膝を打つて
しまった。
子会社による巨額詐欺事件、
元社員による機密漏洩事件など、
東芝グループはこれまで多くの
事件を起こした会社でもあった。
その分、多くのことを学び取っ
たようだ。中国でも消費者の不
買運動に苦しめられた過去をも
つ。しかし、その後、自らの努
力で消費者の信用を取り戻し、
現地で最高権威の賞の一つであ
る「光明公益賞」など多くの賞
を受賞し、ビジネスも順調に進
むようになった。今では、中国
進出の日系企業の中で一際大き
な存在感をみせている。
その意味でも、コンプライア
ンスとCSRの担当役員が書い
た本書は一読する価値がある。
しかし、生きたビジネス現場の
ことを基にしていながら、企業
役員の書く本にありがちな公文
調は少々気になる。もつと臨場
感のある、生きた書き方をして
いないのは非常にもったいない
と感じた。